

わが町のここが聞きたい

問

寄附される8億円の
使い道を提案

答

町総合計画に掲げる
事業に活用する



質問者の動画が
視聴できます。

やぎ ふみと
八木 史 議員



問 八木議員

大型風車19基を建設したグリーンパワーインベストメント（以下「GPP」という。）が地域活性化等のため、令和6年度から毎年4000万円を20年間、計8億円の協力を町に寄附するに当たり、使い道として次の5つを提案するので、考えを伺う。

①現在の町の高等教育修学支援資金を一定の条件のもと（大学等卒業後地元就職した場合など）その返済を免除する給付型の奨学金の創設。
②町出身の大学生等へ年2回ほど、町の特産品を贈る支援事業の創設。
③抽選会付全町大売出し、プレミアム付食事券発行等への支援の定着化。
④5つの下水道処理区域があるが、加入率が41パーセント程度。特に北金ヶ沢地区は8パーセント、田野沢地区が47パーセント程度と半分にも達していないことから、加入促進を図るため、住宅リフォーム事業の下水道接続補助金を大幅に引き上げる対策。

⑤6次産業を目指す生産者が成功するよう、国・県等の各種支

援の情報提供など町のサポートが必要。

答 町長

①〜⑤GPPからの寄附金は、町の農林漁業及び地域の活性化に役立つことを目的としたもので、その使い道は、深浦町総合計画に掲げる事業に活用する。令和6年度の当初予算に計上した4000万円は、町の第3次深浦町総合計画等の策定に900万円、地域公共交通対策に1500万円、北金ヶ沢漁港の海水処理施設機器更新に200万円、町内大売出しに400万円、深浦宿泊キャンペーンに1000万円、合計4000万円を充当する予定としている。
したがって、提案の各種事業については、今後の参考にさせていただきます。



深浦駅舎の利活用
などの考えは

『JRRと協議し
利活用を検討する』

問 八木議員

①深浦駅の駅員が3月のダイヤ改正から不在となる。駅舎の利活用、観光客のためのトイレの維持管理等、考えを伺う。併せて、昨年9月定例会で質問した駅前の町有地の調査と活用等の考えは。

②一昨年の豪雨災害で被害を受けた、十一湖の森林セラピィーロード等の現在の状況は。また、十一湖森林セラピィー事業を今後如何にして進めていくのか。

③「ガンガラ穴」は、知る人ぞ知る観光スポット。観光情報を発信するには渡し船が必要となるが、本気になって取り組む価値があると思うが考えは。

④十一湖に限らず冬の深浦観光は町を訪れる人が極端に減少する。一昨年からだんだんインバウンド需要も高まってきて、最近では、日本での体験に注目する傾向が強くなってきている。

わが町のここが聞きたい

冬の十二湖トレッキングをメインとし、イグルー体験、豪快な海産物の提供等、色々と組み合わせさせてはどうか。

⑤一昨年の豪雨災害で漂着した流木等がまだまだ目立つ。今こそ、青森新時代を掲げた宮下県知事に対し、深浦町観光の目玉である海岸線の速やかな復興を訴えていただきたい。

答 町長

①深浦駅の駅係員による営業は、3月16日から終了となり、以降は、終日不在となる。また、深浦駅のトイレは、令和6年4月以降、町が維持管理する。駅舎の利活用については、外観のリフォームと併せ、JR東日本秋田支社と協議を重ねた上で、その利活用を検討する。なお、駅前の町有地の利活用等は今のところ考えはない。

②十二湖の森の森林セラピーロードには4つのおすすすめコースがあり、そのうち一番人気の「青池・沸壺の池コース」は被害も少なく利用が可能となっているが、「王池コース」は散策道が崩落して通り抜けできない。また、「金山の池ショートコース」及び「金山の池・糸畑の池

ロングコース」は、スタート地点の十二湖リフレッシュ村が、町道十二湖青池日暮線の崩落で休業しているため「森の物産館キヨロク」に変更して実施している。この他の大きな被害のあった日本キャニオン展望所からの東北自然歩道は、4月以降利用できる見込みだが、町道十二湖青池日暮線は工事を発注したが、未だ工事が始まっていない。日本キャニオン渓谷部に下る小夜の池線の復旧は、打開策が見つからず、今後十二湖森の会と現地調査を行い、う回路など検討したい。金山の池連絡橋の復旧工事は新年度予算に計上した。

また、森林セラピーの活動は、運営している「十二湖森の会」によると、ガイドの高齢化や新規ガイドの加入がなく、現在5名程度まで減っている。高齢化・マンパワー不足を念頭に、今後の事業の在り方を検討していきたい。

③昨年夏に、沢辺地区の漁業者が不定期だが森山海岸やガンガラ穴の遊覧案内をしていた。波浪状況にもよるが、条件が揃えば今後実施したいとのことから、周知等に協力したい。

④冬季の観光需要の落ち込みは、東北地方一帯の弱点・課題として長らく国や県においても検討されているが、雪に触れるだけの体験など目的は異なるが、一定数の需要がある。提案の「雪」と「食」を掛けさせた内容は、オリジナル性が高いので検討していく。

⑤復旧事業の優先度から、後回しになったことは否定できないが、今後、海岸管理者との協議を進め、順次撤去を進めたい。行合崎海岸は、港湾区域に指定されていることから、管理者の県発注で、今年2月下旬に撤去作業を行っている。



学校林の現状と伐採は

『伐期を過ぎても売れない状況』

問 八木議員

1950年代、学校の基本財産形成や生徒・児童の環境に関する教育・体験活動などを目的に、教職員や保護者を中心となって学校林を整備・保有してきた。そこで、次の3点について伺う。

- ①深浦町の学校林の現状は。
- ②伐期が到来した樹木の伐採は。
- ③伐採により得た財産はどのようなのか。

答 町長

①校舎の改修や学校備品の購入等のために造林した学校林は、修道小学校のほか廃校の小学校6校合わせて10か所にあり、小学校からは遠く離れており、いずれも国有林内で、ほとんどが杉、伐期を過ぎてもなかなか売れない状況となっている。

②当町の学校林は国と町が契約を締結している分収造林なので、伐期が到来した分収木の販売は、国が立木のまま販売し分収する。

③分収の歩合は、10か所ある学校林のうち9か所は、国が2割で町が8割、1

か所は国が3割で町が7割となっており、入札により落札した業者へ町が直接請求することになるので、町の歳入として処理される。

